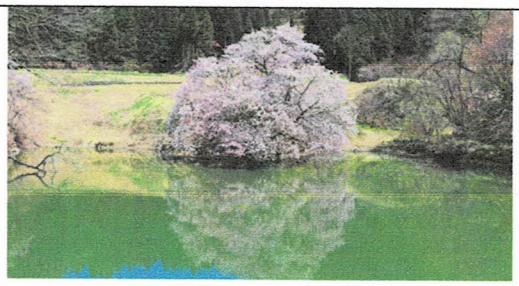
県人会　だより



令和３年４月号

ひろしま福島県人会

（鏡桜　喜多方市）

●令和３年度　総会は中止、男子駅伝の応援から

３月２８日１３：３０より蔵王で開催された役員会において令和３年度の総会はコロナ禍を考慮し中止と決定されました。総会に代わるものとして令和２年度の活動状況や会計報告などの資料を送付し、質問をはがきで受付・回答することになりました。

また役員会では活動休止期間中の出来事として２５周年記念誌への礼状、菅野金蔵（元会長）さんの逝去、帰還をした高田ご夫妻よりのポスター贈呈、３月１１日福島民報新聞の『復興の歩み　これからも』への応援メッセージ掲載、まち物語制作委員会（代表福本英伸・ﾍﾟﾝﾈｰﾑいくまさ鉄平）作成の『ふくしま絵うた本』の購入、３月１１日の記念行事への参加状況などが報告されました。

さらに今後の県人会活動は「ひろしま男子駅伝の応援」から再開する、一般会計・特別会計と分けて管理されていた会計は１本化すること、***令和３年度会費は徴収中止***、新入会員に道上達弘・有香さん、再入会員に谷花宮子さんが入会されたことが報告されました。ひろしま男子駅伝は例年ですと１０月末ごろに応援企画会議が開催されますので実質的な活動はこの頃からになります。大会事務局の駅伝開催情報にご注意ください。**（関連記事は別紙をご覧ください）**

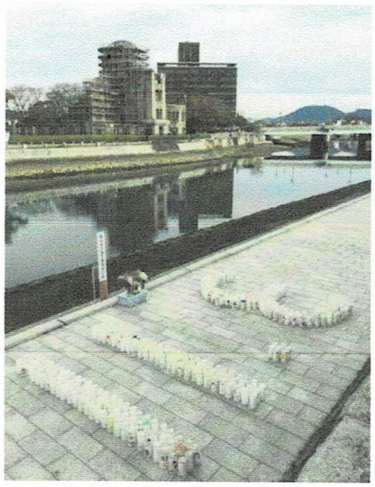
●菅野金蔵さん逝去

元会長の菅野金蔵さんは昨年１０月逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

●１０回目の３月１１日

節目となる１０年目の東日本大震災の記念行事が広島市内で開催されました。会員が参加した行事を紹介します。**（関連記事は別紙をご覧ください）**

下記は原爆ドーム対岸の追悼会場での会員、内藤・川合・加藤・坂本・中本さん（左より）



●ひろしま福島県人会２５周年記念誌に礼状

令和２年８月発行の「ひろしま福島県人会のあゆみ」は会員、特別会員、退会者、関係者に配布されました。コロナ禍の中、手作りにこだわった皆での作業でしたが好評をいただき関係者一同大喜びです。寄せられた感想・感謝の手紙等を紹介します。（礼状は別紙をご覧ください）

●今年の「黄金山　滝桜」

平成２６年３月に三春町から移植された滝桜の子孫は大きく成長し今年も見事に咲きました。
（写真は草野勝直幹事撮影）

●県人会だよりが福島県ホームページにＵＰ

「県人会だより」が福島県のホームページにＵＰされました。
リンク先　＝＞　https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/01010e/kenjinkaihou.html
福島県人会北海道連合会、東京福島県人浜通り会、西東京市福島県人会、東久留米市福島県人会
東海福島県人会、関西福島県人会、ひろしま福島県人会がご覧になれます。

■事務局連絡先が変更になっています

ひろしま福島県人会の連絡先
事務局長・・・荒井　修（あらい　おさむ）
連絡先住所・・〒731-0144　広島市安佐南区高取北４－１６－１１
荒井　修　様方　**ひろしま福島県人会**
Ｔ　＆　Ｆ・・・荒井　修　082-872-7510　　携帯 080-1908-6043
Ｅメール・・・県人会　hiroshimafukushimakenjinkai@yahoo.co.jp
個　人　o-arai1@gray.plala.or.jp（県人会の○○○と注釈をつけてください）

2021.3.11. 福島民報　復旧のあゆみ　これからもの応援メッセージ

私たちは　これからも　古里ふくしまを　応援しています!!

福岡ふくしま県人会

会長／三　森　弘　一
（いわき市平字四軒町出身）
会員／88人

「福岡ふくしま県人会」は平成2年（1990年）に福岡県で開催された「とび梅国体」の県代表選手の応援団として発足し、会員の親睦とふるさとの応援を目指した活動をしています。総会と懇親会は昨年2月に開催しました。新コロナウイルスの影響もあって参加者は例年を下回る17名でしたが、福島の近況報告やお土産抽選会をおこない親睦を深めました。また昨年3月には、予定されていた恒例の「第9回東北芋煮会（会場：福岡市天神 警固神社）」、「第6回東日本大震災復興支援プロジェクト 紫川大歌声喫茶（会場：北九州市小倉紫川水上ステージ）」は新コロナウイルス感染予防のため残念ながら中止となりました。今年度の活動に関してはまだ決まっていませんが、引き続き会員相互の親睦とふるさと福島の応援を続けてまいります。

令和2年（2020年）2月に開催された福岡ふくしま県人会総会

ふくやま福島県人会

会長／阿　曽　恒　夫
（福島市飯野町出身）
会員／48人

平成11年（1999年）、望郷懇親会風の県人会発足。新年会・納涼会・駅伝応援・等・楽しんでおりましたが、震災・原発事故・発生以降は、"負けてたまるか福島県！"を合言葉に、当地イベントでの「故郷産品販売・観光PR」等、母県の復興支援活動が主体となって来ております。

あれから10年、福島県発信メディア等を通して、少しずつでも確実に進行していく復興状況を知るにつけ、地元の方々の努力に敬意を表するところであります。
私共は、故郷との絆を絶やさず、母県復興に心からの"エール"を送り続けます。

令和元年（2019年）7月に開催された総会・納涼会

事務所／〒721-0906 福山市能島2-23-13-3

ひろしま福島県人会

会長／伊　丹　眞　二
（浪江町出身）
会員／94人

「ひろしま福島県人会」は、昭和60年（1985年）より親睦会である「ふくしま大好き人間の集い」として活動しておりました。平成8年（1996年）から広島市で全国都道府県対抗男子駅伝大会が開催されるのを機に、第1回の駅伝大会において24名で「ふるさと応援団」を結成、故郷の選手を応援し、翌平成9年（1997年）、現在の県人会名に改称しました。全国対抗男子駅伝大会の選手団応援などを中心に、納涼会、芋煮会などを開催し、会員相互の親睦を図るとともに、広島県の皆様の御理解と御支援をいただきながら福島県の復興支援活動もしています。福島県出身の方はもちろん、福島県に縁のある方、福島県が好きという方の御入会をお待ちしています。

令和元年（2019年）4月に開催された総会・懇親会

〒731-0144 広島市安佐南区高取北4-16-11　荒井修様方

関西福島県人会

会長／鈴　木　　直
（本宮市出身）
会員／231人

当会では、昭和34年（1959年）の設立以来、関西2府4県、約230名の会員とともに"ふるさと福島"の発展に寄与することを目的として、高校野球やラグビー、駅伝などの全国大会に出場するチームの激励や応援活動を積極的に行ってきたほか、震災後は特に、各種イベントでの県産牛や日本酒、モモなど、本県が誇る産品を販売し、風評払拭と観光PRに取り組んできました。引き続き、新型コロナの状況を見極めながら、福島県の魅力を発信していきます。

関西地区に在住する福島県出身者や縁故者、さらに、この会の趣旨に賛同できる方は、どなたでも御入会いただけます。

内堀知事を迎えて開催された第60回（2019年2月）記念総会

〒530-0001　大阪市北区梅田1丁目3-1 大阪駅前第1ビル9階

東海福島県人会

会長／関　本　幸　夫
（喜多方市塩川町出身）
会員／133人

会の発足は昭和50年（1975年）12月。会員の多くは東海三県（愛知・岐阜・三重）に居住する福島県出身者とその縁故者ですが、福島県出身でなくても、福島が好きという方、応援したいという方であれば、どなたでも入会できます。郷土福島県のPR及び発展に寄与するとともに、会員とその家族を含めた親睦を図ることを目的として活発に活動しております。代表的なものとしては、9月に愛知県名古屋市中区で開催される『ふるさと全国県人会まつり』と、10月に開催される総会及び懇親会です。また、共通の趣味を持った会員相互の交流も盛んに行われており、ゴルフ部会においては春と秋の2回、親睦ゴルフコンペを開催しております。

『ふるさと全国県人会まつり2019』にて故郷産品をPRする会員

〒460-0008　名古屋市中区栄4丁目16-36 久屋中日ビル5F
福島県名古屋事務所内

動く紙芝居（アニメ）付き絵本

ふくしま絵うた本販売中

ふくしまの震災物語を未来に残すため、ご支援をお願いします。
絵おと本を購入していただいた費用で全国各地の学校や図書館、公民館に絵おと本を寄贈します。

2021年には東日本大震災から10年を迎えます。
原子力災害を風化させてはいけないとの想いから
（一社）まち物語制作委員会は震災の物語を紙芝居にし、
被災者にお届けし語り継いでもらっています。
その震災の物語は2020年には70本に達しました。
この中から10の物語を選び、
動く紙芝居（アニメ）を添付した絵本を
全国の図書館や学校、公民館に置いていただき
未来を担う子供たちに見てもらいたいと考えています。
絵うた本は販売しますが、その収益は配布の費用にあてます。

購入はまち物語制作委員会のHPからお申し込みください
http://matimonogatari.iinaa.net/

動く紙芝居には俳優の大地康雄氏がストリーテーラを務めるほか
プロの劇団員に加え福島の避難者が声優として参加しています。
またそれぞれのテーマソングは震災を想い制作した
福島のシンガーソングライターの作品を使用しています。

東日本大震災10周年事業　未来に伝えたい10の物語

ふくしま絵うた本プロジェクト

問合せ先／（一社）まち物語制作委員会　福本　TEL090-9734-9389　メールmatimonogatari@sky.megaegg.ne.jp

未来に残したい10の物語

2021年3月以降に制作予定の作品は別の作品に変更する場合があります。

消防団

浪江町消防団物語

無念

2,000円

地震発生、津波到達により壊滅状態となった浪江町の請戸地区。しかしそこには助けを求める命があった。余震、津波の恐れがある中、消防団は翌朝、日の出とともに救助に来ることを約束し、一旦撤収する。そこに発生した原発事故、消防団自身も避難を余儀なくされた。助けられた命があることを知りながらの避難、無念は何年たっても消えない。

酪農家

浪江ちち牛物語

1,000円

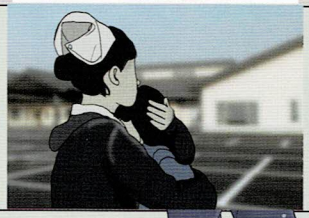
原発事故により汚染された福島の牛たちに下った殺処分命令。安楽死させられた牛たちの数は福島県下で3000頭を超える。人に運命を握られる牛たち、機械的に処分されたと捉える人も多い。しかし、そこには精神を病むほど悩み苦しむ酪農家がいた。牛目線で酪農家の悲しみを伝える。

介護施設

母・娘避難物語

私は帰らない

2,000円（2021年販売開始）



介護施設に勤務しはじめたばかりの娘は懸命にお年寄りの世話をし救助を待っていた。慣れぬ仕事、重労働に娘は倒れる。命の危険が迫る中、施設長は娘を迎えに来るよう母に電話する。その横で「帰らない」と叫ぶ娘、修羅場だった。母は娘のそばにいる施設長に「私に代わって娘を抱きしめてほしい」と頼む。

避難生活

見えない空の下で

2,000円（2021年販売開始）

3月11日以降始まった避難生活。震災前、浪江町で民話の語り部活動をしていた故佐々木ヤス子さんは桑折町の避難所にいた。その人は避難を綴った随筆「恐ろしい放射能の下で」を自費出版し、避難所で出会う人に配布していた。その本を元に紙芝居にしたのが鉄平が初めての震災紙芝居「見えない雲の下で」である。

仮設生活

命のおにぎり

2,000円（2021年販売開始）

避難生活が続く2014年の新春、東北を襲った突如の大雪。雪に慣れているはずの東北人もあまりの豪雪に立ち往生する。閉じ込められて3日が過ぎようとしていた。ドライバーに命の危険が迫る中、立ち上がったのは道路沿いの仮設住宅に暮らす飯館村の避難者だった。本エピソードは教科書で紹介された。

教師

東日本大震災
せんせい奮闘記

大好きな人

2,000円（2021年販売開始）

翌年には新校舎への転居が決まっていた築50年の小学校。そこに怒った大地震、建物が大きく揺れ、天井が落ち、倒れ掛かる黒板を背中で受け止め子どもを逃がす教師。避難した校庭には雪交じりの寒風ふきぶさむ。建物に避難することもできず、苦慮した教師たちはビニールシートを掲げ子供の周囲をとり囲み、寒さから守る。震災時における学校の先生の頑張りを伝える物語。

メディア

ふくしま

ラジオ物語

2021年3月以降制作予定

東日本大震災発生、電気が止まりテレビやインターネットが見れぬ中、人々が頼りにしたのは乾電池で動くラジオだった。不安の中にある人々を勇気づけるためラジオ人は夜を徹し、半年間CMカットし、ひたすら必要な情報をとどけた。リスナーとの距離が近い地方のラジオ局、被災地の人々の姿が脳裏に浮かぶ、アナウンサーは泣きながら発信した。

漁師

命の次に大切なもの

2021年3月以降制作予定

豊かな漁場でしられる福島の浜通り、そこには古来より津波の脅威に備え「命の次に船を守れ」との格言がのこっていた。大地震の後には津波が襲ってくることを知る相馬の漁師。命の次に大切な船を守るため沖に船を出す。翌朝、港に帰ってみるとそこには町はなかった。すべてを失って気付いた命の次に大切なものとは

障がい者

知的障がい者避難物語（仮称）

2021年3月以降制作予定

多くの人が命からがら逃げ込んだ避難所。一人の知的障がいを持つ若者もやってきた。最初、避難所の人々は敬遠していたが、一人の被災者として受け入れ、最後は避難所のアイドル的存在になる。非日常の中で起きた健常者と障がい者がおりなす人間模様。

5

温泉街

旅館の女将奮闘記

2021年3月以降制作予定

震災後、一時避難所として多くの避難者を受け入れた温泉旅館。旅館自体も大きな被害を受けたが、自身のことは二の次に被災者の支援にあたる女将達。次に押し寄せたのは東京電力福島第一原発事故の復旧作業の作業員だった。汚染が危惧される作業員の受け入れは観光旅館としてのイメージダウンは必至だった。風評被害を増長しかねない選択に悩む女将の物語。

申込先：一般社団法人まち物語制作委員会　733-0011 広島市西区横川町二丁目5−15　メール：matimonogatari@sky.megaegg.ne.jp TEL090−9734−9389

（第三種郵便物認可）　2021.3.12. 中国新聞　中國新聞

祈り・誓い 離れても

広島県坂に避難の渡部さん 古里思い「葛藤の10年」

震災の発生時刻に自宅で手を合わせる渡部さん。亡き夫の写真や被災前の古里のパネルも飾られていた＝11日午後2時46分　（撮影・高橋洋史）

「葛藤の10年だった」―。東日本大震災から10年の11日。生まれ育った福島県浪江町を離れ、広島県坂町に避難した渡部恵子さん(62)は時の流れをかみしめた。この間、福島の自宅を取り壊した。古里に戻りたいと願い、かなわなかった。40年以上連れ添った夫も亡くした。「でもよ、前を向いて生きていくしかないっぺ」。浪江弁で力強く語った。

この日、発生時刻の午後2時46分。渡部さんは坂町の自宅で静かに手を合わせた。犠牲者を悼みながら、遠く離れた友人たちの顔が脳裏に浮かんだ。

目の前のテレビでは当時の映像が繰り返し流れる。「10年たったぞ」。傍らに置いた夫の写真に報告した。

震災当日、夫とともに自宅で震度6強の激しい揺れに襲われた。倒れたやかんの熱湯をかぶり、右足に大やけどを負った。翌日の早朝、高台にある避難先の小学校から町を見渡すと、古里の景色は変わり果てていた。「原発が爆発する。逃げろ」。その声を聞き、別の小学校に移って数日を過ごした。

自宅は東京電力福島第1原発から8キロほど。広島市にいる次男一家の勧めもあり、家族で坂町の県営住宅に逃れた。福島を離れるのは心細かったが「いつか帰れる」と願い、住宅ローンを払い続けた。

現実は厳しかった。一時帰宅した際、放射線量が高く、帰還は難しいと知った。ローン完済後の2016年、やむなく家を解体した。

近所の人と料理を分け合ったり、お茶を飲んで会話を弾ませたり。震災前の日常はかけがえのないものだったと今でも思う。福島の友人と再会するのはうれしかったが、その分、別れの寂しさがこたえた。「帰ってこい。協力するから」。友人の言葉に心が揺れた。

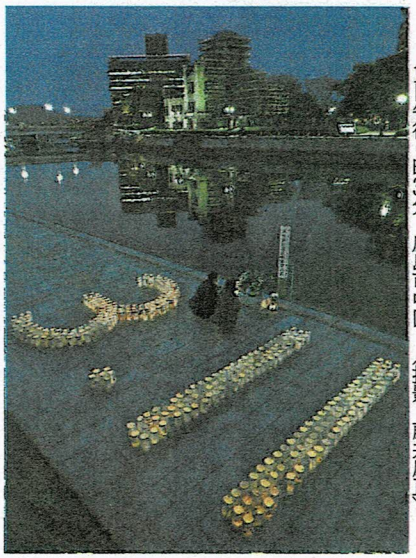
だが、震災前の日常が戻る保証はない。認知症を患った夫、自身の老後、子どもにかける負担…。思い悩んだ末、広島にとどまることを決めた。

1年前、夫が76歳で死去。「家はないけど帰りたいな」。生前、夫は涙ながらに何度もそう語った。自宅に仕事仲間を招いては食事を囲み、満面の笑みを浮かべる夫の姿を思い出す。「今頃、お父さんの魂は浪江に帰ってるんじゃないかな」

広島や福島にいる多くの人に支えられ、乗り越えてきた10年。1人暮らしとなった今でも福島の友人と電話し、送られてくる古里の産品を食べるのが楽しみだ。「古里の空気を吸いに行きたい。いつもそう思っている」。そう言って、遠くを見つめた。

（浜村満大）

追悼の光 紙灯籠の「3・11」 広島で集い



元安川親水テラスで「3・11」の形に並べられた紙灯籠＝11日午後6時36分、広島市中区　（撮影・藤井康正）

東日本大震災の犠牲者を追悼する集いが11日、広島市中区の原爆ドーム対岸の元安川親水テラスであった。約320本の紙灯籠で「3・11」の数字を浮かび上がらせ、震災から10年の節目に記憶を風化させないよう決意を新たにした。

市内の一般社団法人「震災復興子ども支援」が企画し、新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加者を限定して開いた。地震発生時刻に黙とう。続いて「3・11を忘れない」などと書かれた発光ダイオード（LED）電球入りの紙灯籠をともした。

岩手県陸前高田市を襲った津波で、両親と兄を亡くした兵庫県西宮市の会社員村上幸枝さんは同法人の招きで参加した。「家族を捜した数カ月はとても長かったが、10年はすぐに過ぎた。もう一度、家族に会いたいという気持ちは今も変わらない」。静かに手を合わせていた。

（石井雄一）

動画は中国新聞デジタルで

6/9

新聞　2021.3.12.中国新聞　（第三種郵便物認可）

東日本大震災10年

祈り応援し続ける

広島市内でも追悼

東日本大震災の発生から10年となった11日、広島市内の各地で追悼行事が営まれた。市民たちは地震の発生時刻に黙とう。犠牲者の冥福を祈り、被災地支援の継続や災害への備えを誓った。

（城戸昭夫、山崎雄一）

㊤三春滝桜ゆかりのシダレザクラの前で、故郷への思いを語り合うひろしま福島県人会の会員（広島市南区）

㊦オンラインの追悼の集いで、地震発生時刻に黙とうをささげる参加者（広島市中区）

県内に避難した人でつくる「ひろしま避難者の会アスチカ」や被災地支援に取り組むNPO法人などでつくる実行委員会は、「追悼の集い」をオンラインで開催。ウェブ会議システムで中区の会場と参加団体をつなぎ、午後2時46分の地震発生時刻に全員で黙とうをささげた。

「今となってはあっという間の10年」とアスチカの三浦綾代表(48)。渡部朋子実行委員長(67)は「今後も暮らしの在り方や災害との向き合い方を考えていく」と力を込めた。

安佐南区の伴西公園には地元の伴中央上老人クラブのメンバーたち約70人が集まり、彼岸花の球根約千株を植えた。同クラブは被災地の桜並木が津波で流されたのを受け、2012年から毎年、鎮魂の意味も込めて公園内に桜やアジサイを植えてきた。同クラブの前代表で植栽を提案した杉原悦子さん(83)は「今の幸せに感謝し、被災地への祈りを続けたい」と話した。

ひろしま福島県人会の会員たちは、南区の黄金山山頂を訪ねた。福島ゆかりの「三春滝桜（みはるたきざくら）」の接ぎ木で育ち、震災後に地元住民が植えたシダレザクラの前で犠牲者を追悼。震災当時の新聞紙面を見せ合い、故郷への思いを語り合った。同県浪江町出身の伊丹真二会長(74)は「堤防や町並みは整備されたが、安心して暮らせる環境が戻ってこそ復興。時間はかかるが、応援し続ける」と強調した。

中区の原爆ドーム前では、県原水禁などでつくる実行委員会が「フクシマを忘れない！さようなら原発ヒロシマ集会」を開催。東京電力福島第1原発事故を踏まえ、脱原発を訴えた。

7/9

近況便り．　R2・10・2.

急に秋らしく～本当に今年は「コロナ」により大変な年に～。健康状態はいかがですか？
私は相変わらずディサービス・病院等に～症状は変化せず（年ですから、現状維持が最高！（？）
過日は「創立２５周年記念誌」をいただきまして有り難うございました。皆さんの情熱一杯、大変なご苦労だったと思います。「思い出」一杯で～重ねて御礼を申し上げます。

さて、昨日「関西福島県人会」より「～だより」臨時１号が送付されました。遅きに～「ひろしま・福島県人会たより」が先輩！以前、「故清水先輩」が男子マラソンの慰労会で「エール」～関西に転居して入会した時に「広島風ニユホーム」の作成を提案してオレンジ色の～作成したことを思い出します。明日より関西事務所で「福島物産販売」を開始するようです（毎週土曜日終日・事務所にて・１２月末まで9:-17:30）

今年は甲子園にも行けず寂しい年でした。～通い以外は、週１度ディサービスで「麻雀」（以前よりボランティアで）また転居以来ボランティアで、「夙川」・「お前浜香櫨園浜」の清掃に「土・砂」に親しんでいます。

最後にご家族のご健勝を祈念してペンを置きます。お礼と近況ご報告まで～

鈴木鈴七

小春日がつづきます。
先日、「ひろしま福島県人のあゆみ」をお贈り頂きました。
中本様からお電話をいただき、有り難く感謝申し上げます。
創立25周年おめでとうございます。たゆみなき皆様のご努力、敬意を表します。
拝読させて頂きます。
皆様にどうぞよろしくお伝え下さい。
ご自愛を。

（白砂やす子様）

残暑お見舞申し上げます　8/9

コロナ、台風、熱中症と今年は大変な年となりました
ご無沙汰いたしておりますがお変わりなくご壮健にてご活躍のことお慶び申し上げます。
「創立記念誌」ありがとうございました
大和田先生のご長男及び実弟そして関係者に送付させていただきました。涙を流しながらよろこんで下さいました。素晴らしい記念誌に感謝いたします。先生もよろこんでいます
記念誌は、振り込み完了しております
粗末にてお礼まで
かしこ

（宅重英輝様）

初秋の候、皆様にはお健やかにお過ごしのことと存じます。
このたびは「ひろしま福島県人会創立25周年記念誌」をお送り下さいまして誠にありがとうございました。
中身の濃い立派な記念誌でページをめくるごとにお世話になった頃を思い出し懐しさが込み上げてきます。
大和田住香さんには第一回から大変お世話になり感謝しております。心からご冥福をお祈り申し上げます。
ひろしま福島県人会の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。
ありがとうございました。

（御代田吉友様）